

「吟子の生涯」映画完成

地元熊谷で試写会

山田監督「埼玉が生んだ」

日本初の女医荻野吟子(1851~1913年)の半生を描いた映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」(山田火砂子監督)が完成し、各地で試写会が開かれている。1日は吟子が生まれた熊谷市の妻沼中央公民館で約1400人を集めて上映。映画は10月26日から、熊谷市の熊谷シネティアラ21などで公開される。

(橋本浩佑)

映画は男尊女卑の時代に公許女医第1号となった吟子の不屈の精神と深い愛を描いている。吟子役を若村麻由美さん、夫でキリスト教伝道師の志方之善役を山本耕史さんが熱演。熊谷市の荻野吟子記念館や妻沼聖天山、深谷市の深谷商業高校など県内でもロケが行われ、地元の児童や市民もエキストラとして出演している。

妻沼中央公民館での試写会。午前と午後の2回行われ、午前の部は立ち見が出るほどの盛況ぶり。吟子の姉野口友



▲試写会で舞台あいさつする(右から)山田火砂子監督、磯村みどりさんら。1日午前、熊谷市の妻沼中央公民館
▲映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」の資料から(現代ぶろぐ)より提供

全編を貫く強い意志

子役の斎藤とも子さん、吟子の母かよ役の磯村みどりさんらに続いて舞台あいさつした山田監督は「ここにいる皆さまも見てもらいたい」と話して、大変お世話になった。埼玉が生んだ映画なので、ぜひ皆さんに見てもらいたい」と呼び掛けた。

エキストラとして出演した熊谷市のパート鈴木昌江(63)は完成した映画を見るの会「も運営を支えた。

試写会は8月29日夜、さいたま市浦和区内でも開かれた。画面いっぱい北海道・瀬棚の冬の荒海が広がり、右手に白く砕ける波を受けて立つ三つの巨岩が映し出された。この海岸で育った中村隆俊さん(91)と弟の秀夫さん(89)が、客席からスクリーンを見つめた。この岩が、兄弟の父末吉さんが中村さんたち兄弟に「この岩のように3人で力を合わせて生きよ」と教えた「三本杉岩」だ。

中村さんは3人兄弟で皆医者になった。長兄の故哲夫さんは板橋中央総合病院を立ち上げ、手伝った弟たち、隆俊さんは戸田中央総合病院を、秀夫さんは上尾中央総合病院をそれぞれ立ち上げた。

映画では、三本杉岩の海岸で、夫の志方に先立たれ絶望する吟子に、見知らぬ老人が「医者は人の命を助ける。素晴らしい仕事。頑張れ」と励ます。この老人が3兄弟の祖父だという設定。隆俊さんは「いつの時代、どんなステージでもやり抜く強い意志が必要だと、改めて感じる。多くの人に見てもらいたい映画だ」と語った。

て、「俳優さんの演技はやっぱりすごい。迫力が違う」と感心。一緒に来場したパート仲間の天野知枝さん(63)は「映像に引き込まれ、あつと